

■課題 1 メディアプレイヤーのメニューを作成しましょう。実行例に示すように各メニュー項目にはアイコンを配置します。さらに機能ごとにセパレータを引きましょう。

メニュー構成は次の通りです。

[メニューバー] → [ファイル][再生][ヘルプ]

[ファイル] → [新規作成][開く][保存][設定][印刷][ログアウト]

[再生] → [再生][停止][一時停止]

[ヘルプ] → [ヘルプ][更新の確認][バージョン]

※ | はセパレータです

その他の設定は次のとおりです。参考にしましょう。

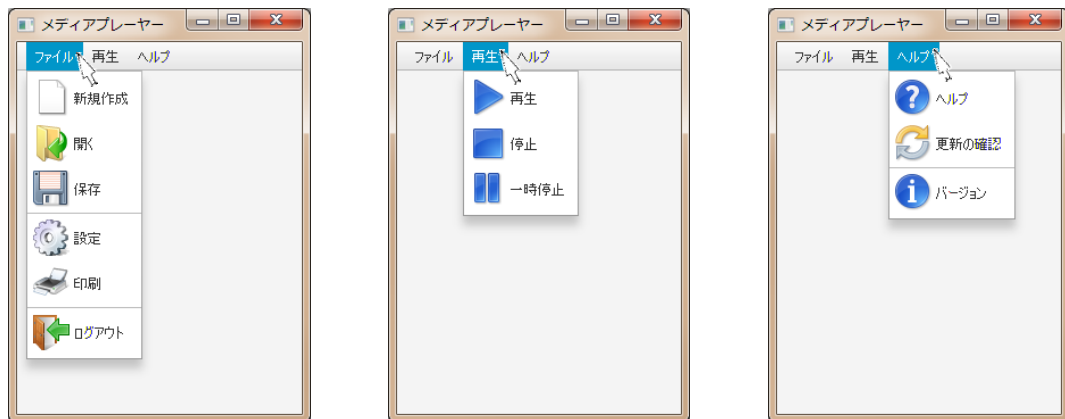
レイアウト → BorderLayout の Top にメニューバーを配置

メニューバーの背景色 → 無し〔setBackground(...)は実行しません〕

ウィンドウのタイトル → メディアプレイヤー

※画像は HP よりダウンロードしてソースファイルと同じフォルダに保存しておきましょう
※おおよそ実行例のような画面になれば OK です

〔実行例〕



〔コマンドプロンプト〕

setting

open

pause

update

:

※各メニュー項目がクリックされたら識別子を表示します。識別子名はお任せです。

■課題2 画像レタッチアプリを作成しましょう。3枚の画像を準備します。メニューにより画像の選択とエフェクトの設定を行います。エフェクトはサブメニューで効果の強さを調整できます。

メニュー構成は次の通りです。

[メニューバー] → [画像の変更][エフェクトの設定]

[画像の変更] → [古い本棚][観葉植物][サンタさん]

[エフェクトの設定] → [セピア][ぼかし][輝き]

[セピア] → [強さ 0.2][強さ 0.5][強さ 0.8]

[ぼかし] → [ぼかし半径 2.0][ぼかし半径 8.0][ぼかし半径 32.0]

[輝き] → [強さ 0.2][強さ 0.5][強さ 0.8]

その他の設定は次のとおりです。参考にしましょう。

- レイアウト → BorderPane の Top にメニューバーを配置
BorderPane の Center に ImageView を配置
- メニューバーの背景色 → 無し〔setBackground(...)は実行しません〕
- ウィンドウのタイトル → 画像レタッチアプリ

ヒント：エフェクトを付けるときは、ImageView クラスの setEffect(...)メソッドを用いますが、エフェクトが重複しないようエフェクトをつける前に一度 setEffect(null)を実行して原画像に戻します。

※画像は HP よりダウンロードしてソースファイルと同じフォルダに保存しておきましょう
※おおよそ実行例のような画面になれば OK です

〔実行例〕

